

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整理番号	B02
構 想 名	「世界から日本へ、日本から世界へ」 一人と知の循環を支えるネットワーク中核大学ー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、真の多言語グローバル人材の養成、日本から世界への発信力の強化及び日本の大学のグローバル化支援を目的にした取組であり、東京外国語大学の強みと特色を活かした言語を基盤としたグローバルな教養教育を目指す意義のある構想となっている。教育の可視化、「日本発信力」を備えた人材輩出及び日本社会の多言語多文化化への対応拠点等、優れた取組を進めていると評価できる。特に、CEFR-J x 28 プロジェクト実施による教育効果の可視化促進や Global Japan Office による情報発信・共同教育の推進等、東京外国語大学の特色を活かした取組を着実に進めていると高く評価できる。 また、CEFR-J x 28 プロジェクトに基づく言語教育資源の有料オンライン化や、企業から言語研修や多言語翻訳の業務委託を実施し産学連携による収益確保を図っている等、東京外国語大学の独自性を生かした自走化への取組を行っている点は特筆される。 一方で、外国籍教員の人数は横ばいで推移している。任期制で登用した外国人教員ポストの待遇改善策やクロスポイントメント協定等の活用による多様性を確保する施策も含め、より柔軟な検討と対策が行われることが期待される。また、財政支援期間終了後の自走化については、既に産学連携による収益確保など実績が出ており、より一層の取組が期待される。 本事業によって得られる「日本における国際的な日本研究の拠点」及び「日本社会の多言語多文化化への対応拠点」における言語習得の体系化への取組の体制整備等は、我が国の大学のグローバル化の推進に資するものであり、本事業に採択されていない大学を含めた国内他大学等への展開も期待する。	